

園だより

2022年8月号
2022年8月1日発行

平和を作り出す子

新型コロナウイルス感染症の第7波が到来して、保育園でも一部クラス閉鎖となり、ご心配をおかけしました。コロナに併せて、ヘルパンギーナやRSウイルス、ヒトメタウイルス、手足口病とさまざまな夏風邪が流行してしまいました。ここ2～3年は徹底したコロナ対策により、他の病気があまり流行らなかったのも、驚いています。例年ならば、プール遊びや水遊びの歓声が響き渡るのですが、お休みが多く、静かすぎる毎日がしばらく続きました。泣き声でも笑い声でも歓声でも、どんな声でも子どもの声が聞きたい。子どもの声が聞こえない保育園は、本当に寂しいものだとつくづく感じました。

さて、8月になると特に平和について考える機会がたくさんあります。かつて、日本も戦争をして多くの命を奪い奪われた歴史を忘れてはいけません。ましてや、現在も世界ではロシアによるウクライナ侵攻で戦争が続き未だに終息が見えません、学校や病院が破壊され、幼い子どもや老人の命が脅かされ、痛ましいニュースが毎日のように飛び込んで来ます。あまりにも辛く、見るに耐えなくなります。

私の通う教会は、アメリカ人宣教師がいて日系アメリカ人や東欧リトアニアからきた方もいて国際色豊かです。黎明でも中国やベトナムなど国籍の違う子どもが増えていきますね。もし、民族が違うから、国籍が違うから、言語が違うからと自分たちの利益を主張して争ったら、今のように共存することが難しくなるでしょう。

愛すること（大切にすること）の反対は無関心だそうです。雲柱社の事業理念の一番は「私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長する事を願って保育をします」とあります。実は子どもたちは大人以上に純粋で愛情深いのではないのでしょうか？ さまざまな物や出来事に関心を示すし、お節介もするし、喧嘩もしますが一緒に育つお友達が大好きです。子どもが育ち合い、違いを知り共に生きる中に平和が作り出されているのです。

世界や身近な社会に関心を持ち、様々な人と出会って違いを認め合い、平和を作り出す子どもを育てていきたい。そんな子ども達にこれからの世界を託すのですから。

園長 三幣典子

「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」

マタイによる福音書：5章9節

フランシスコの平和の祈り

主よ、わたしを平和の器とならせてください。

憎しみがあるところに愛を、
争いがあるところに赦しを、
分裂があるところに一致を、
疑いのあるところに信仰を、
誤りがあるところに真理を、
絶望があるところに希望を、
闇あるところに光を、
悲しみあるところに喜びを。

ああ、主よ、慰められるよりも慰める者としてください。

理解されるよりも理解する者に、
愛されるよりも愛する者に。
それは、わたしたちが、自ら与えることによって受け、
許すことによって赦され、
自分のからだをささげて死ぬことによって
とこしえの命を得ることができるからです。